

酸ヶ湯温泉

究極の混浴

酸ヶ湯温泉のスケールの大きさを他の何よりも如実に示しているのが、名物の「千人風呂」です。天井の高さ 4 メートルで 264 平方メートルを超える床面積を誇る、巨大な無柱の木造建築の中には、2 つの大きな混浴風呂と、首や肩をほぐすための湯滝がいくつか設けられています。昔ながらのつくりのこの風呂は、地元産の耐水性を備えたヒバを使用しています。

「この湯は肌にも傷にも血行不良にも良いとされていますが、賢くなったり、性格が良くなったり、人間関係の悩みが解決したりはしません」と新太郎さんは冗談を飛ばします。

十和田八幡平で最も大きく立派な内湯の混浴である千人風呂は、恥ずかしがりやの人にとっては最も敷居の高い浴場でもあります。時代は変わりました。現在の客層は、毎年訪れる農家の家族連れではなく、混浴に慣れていない人が多い観光客です。脱衣所から出ると、入浴者から丸見えの大階段を下りていかなくてはなりません。脱衣所から出ると、丸見えの階段を下りていく。露また、露天風呂とは対照的に、目隠しに利用できるような手頃な岩や木もなければ、他の入浴客の注意をそらすような自然の風景もありません。男性客が湯滝の下に立つときは、一糸纏わぬ姿が露わになります。

酸ヶ湯温泉では、女性の入浴客にとって大浴場がより不安のないものになるような取り組みを行って

います。女性用脱衣所のドアから大浴場まで続く木製の扉により、女性は人目を気にすることなく湯に入ることができます。混浴では女性は湯浴み着を着用しても良いことになっており、湯浴み着は受付エリアで購入可能です。また、朝と夕方に、女性だけが入浴できる時間帯が設けられています。

酸ヶ湯温泉は環境省の混浴プロジェクトにも参加しています。男女ともに湯あみ着を着用しなければならない何度か行われた「湯あみ着の日」の試験的な実施は、この壮大なお風呂により多くの女性やカップル客を呼び寄せ、（調査の結果によると）かつての和気あいあいとした雰囲気をもみかえらせるのに役立っています。

「私たちは、混浴体験をより本格的で楽しいものにする方法を常に模索しています。徐々に定期的な湯あみの日を導入していき、最終的には月に1日、湯あみの日を定着させたいです。それが私たちの将来の目標です」と新太郎さんは言います。